

オーストリアからの災害支援で仮設住宅への訪問歯科診療を応援

～フォルクスヒルフェ・オーストリアとサンスター財団の共同支援活動～
岩手県大槌町の歯科診療所へ移動式診療装置を提供

岩手県大槌町には6箇所あった歯科医院がすべて津波の被害に遭い、一時、歯科治療ができない状況でしたが、4月に歯科医師が共同で仮設の歯科診療所を開設し、大槌町の歯科診療が再開されました。しかし、以前、行っていた高齢者施設などへの訪問歯科診療は、機材がないことから継続できないなど厳しい状況が続いています。

そこで、一般財団法人サンスター財団（本部：大阪府高槻市）では、オーストリアのウィーンに本部を持つ社会福祉組織「フォルクスヒルフェ（Volkshilfe）」から寄託された、東日本大震災への支援寄付金を活用し、大槌町にある歯科診療所へ移動式診療装置を提供しました。今後、仮設住宅地での生活環境の中では、歯科医師が患者さんを訪問できる移動式の診療装置の役割がますます重要になると予測されます。

今回ご支援いただいた「フォルクスヒルフェ」は、9つの組織の連合体で、オーストリアのウィーンに本部を置く社会福祉組織です。1947年に、第二次世界大戦を乗り越えるために人々を支援する目的で創設されました。現在、オーストリア全域で8,500名のメンバーと2,500名のボランティアグループと共に、オーストリアの人々に広範な領域で社会サービスを提供しています。具体的には、社会医療の提供、人道的援助、国際協力などです。オーストリア国外での現地事務所や支所はありませんが、現地のパートナー団体と協調した活動を行っています。

11月16日（水）には、サンスター財団の関係者をはじめ、関連の先生方が大槌町の歯科診療所を訪問し、移動式診療装置と「フォルクスヒルフェ」からの激励メッセージをお渡しし、それぞれの立場から歯科医療の現状を紹介されました。

初めにサンスター財団の理事長、本田孔士より移動式診療装置と「フォルクスヒルフェ」からの激励メッセージが大槌町歯科診療所の歯科医師、小松元先生に手渡されました。

今回、提供した移動式診療装置は、小型のスーツケースほどの大きさの中に基本的な歯科治療に必要な装備が納められている訪問診療用ポータブルユニットです。

サンスター財団の本田からは今回の経緯と支援活動について「サンスターでは、震災発生後、日本赤十字へ義援金 3,000 万円と支援物資を合わせて合計 2 億円相当を寄付。日本の震災のニュースが世界で報道された直後、当時の財団の欧州担当理事から、日本の津波被害への支援の申し出を受けた。同氏が関わる欧州の慈善団体ネットワークに属する、オーストリア支部のフォルクスヒルフェから津波被害への募金活動による寄付金をいただき、サンスター財団は共同支援活動を実施することを決めた。大槌町では高齢者が多い地域のため、訪問診療ができる移動式診療装置が欲しいとの要望を受けて提供することにした」と挨拶の中で述べました。

大槌町歯科診療所の歯科医師、小松 元先生は、大槌町の歯科診療の現状について「大槌町は人口約 20,000 の町で、仮設診療所には 1 日に 100 人以上の患者さんが来られ、現在 3 人の歯科医師で診療しています。これまでの在宅診療では機器が十分ではなく、入れ歯や義歯の調整程度しかできななかったが、今後は診療の幅が広がるので大変ありがたい」と述べられました。また、釜石市歯科医師会鈴木勝会長からも挨拶があり「大槌町には 6 か所の歯科医院があり、全てが津波で流され 2 人の方が亡くなった。残った歯科医師が自分の病院から土砂に埋もれた機材を持ち寄って、地域のために仮設診療所をいち早く始めたのが、ここ大槌町仮設歯科診療所。このような立派な機材をいただけたので在宅医療に役立てたい」と謝辞を述べられました。

このほか関係者として、神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授 足立了平先生からもお話をいただきました。災害時の口腔ケアの重要性について「震災後の関連死には肺炎が多く、誤嚥性肺炎の可能性もあることから口腔衛生状態を良くすることが、避難所で免疫力が低下したお年寄りの命を守ることにもつながる」というお話がありました。足立先生は、サンスターから発信した啓発広告「災害時のオーラルケア」の監修をいただき、社団法人全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会（HDC：通称ホームデンタルケアネット）の副会長という立場から、**同会事務局の岩手県で活動をされている佐々木龍夫氏の全面的な協力を得て**、今回の仮設歯科診療所への支援が実現しました。

サンスター財団では、フォルクスヒルフェが今回提供した移動式診療装置が更に必要になった場合は、引き続き支援を継続する意向があると伝えました。

当日は、新聞 2 社（読売新聞全国版社会面、河北新報 11/17 朝刊に掲載）、テレビ 4 社（IBC 岩手放送、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、めんこいテレビ）の取材もあり、被災地における歯科診療の現状を伝える良い機会となりました。

<本件のお問合せ先>

サンスター財団 TEL 072-682-7298 FAX 072-681-0359

サンスター株式会社 広報室（東京） TEL 03-5441-1423 FAX 03-5441-8774

■ 一般財団法人サンスター財団について

サンスター財団は、身体の局所のみならず全身の視点から健康増進、疾病予防、治療及びリハビリテーションに関する事業ならびに教育啓発や調査研究及びその助成事業を行い、国民や地域コミュニティあるいは国際的な保健、医療及び福祉の発展に寄与することを目的としています。

1977年に設立された財団法人「サンスター歯科保健振興財団」を前身とし、その活動の領域を広げるために、本年4月に一般財団法人「サンスター財団」として新たにスタートしました。

■ 社団法人全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会について

通称HDC（ホームデンタルケア）という在宅歯科医療・口腔ケアを行うNPO団体です。3.11発生後、岩手県歯科医師会から直接支援要請を受けた唯一の民間団体であり、避難所での歯科医療・口腔ケアの支援活動をおこないました。現在も仮設住宅での在宅歯科医療・口腔ケアなどを中心に支援活動を継続しています。大槌町仮設歯科診療所への支援についても全面的な協力を得て実現しました。